



## 間伐の低コスト化に向けた取組

販売課

間伐のトータルコスト縮減に向けた「低コスト化」の取り組みは、平成17年度から現地検討会を開催しており本年で8年目を迎えました。

この取り組みの一つとして、これまで、路網整備を進めてきたところですが、昨年度に森林作業のため林業機械が作業・走行する道については、継続的に利用する「森林作業道」として位置づけられました。

(青森県)、仙台署(宮城県)の協力を得て開催しています。



津軽署:森林作業道の丸太組工

を見ると、間伐箇所の団地化・路網整備・列状間伐・高性能林業機械の導入状況等着実に成果を上げていますが、これらの成果に対して労働生産性が向上していない状況になっており、労働生産性向上のための作業システム現地検討会を実施しています。

このほか、多くの署でも森林作業道の作設方法の普及・定着や低コスト化に向けた現地検討会や勉強会が行われています。

「森林・林業再生プラン」では施業集約化、路網整備、人材育成を柱として、今後10年間を目標に木材自給率50

%以上を目指すことにしており、その達成に向け素材生産、特に間伐におけるコストの縮減が重要な課題です。



仙台署:現地検討会の開会

コスト縮減には高性能林業機械の性能を最大限に発揮させることを中心とした労働生産性の向上が不可欠であり、合理的に配置された路網と、素材生産の工程全体を通じて生産性が高まるような人員や林業機械の配置による低コスト作業システムを構築することが重要となっており、今後も各署と連携しながら取り組んで行くこととしています。

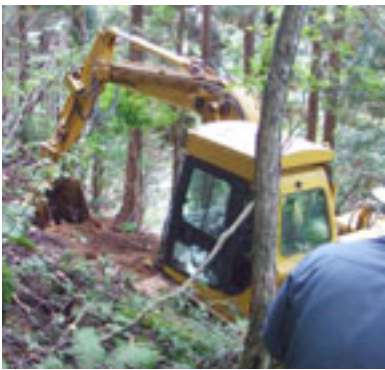


津軽署:ハーベスタによる作業

このため、今年度は「森林作業道作設指針」等に基づく作設方法の普及・定着と併せ労働生産性の向上を軸に、県単位の現地検討会を津軽署

特に、森林作業道の作設で注意する事項として、傾斜や使用する林業機械にもよりますが幅員は3m以内とすること、縦断勾配は概ね8%(10度)程度以下とすること、盛土処理について強固な路体を作設するために基礎部を掘削整地し概ね30cm程度の層ごとにバケット背面及び覆帯で締め固めながら積み上げることなどであり、その重要性を確認しています。

また、これまでの生産事業の結果



津軽署:森林作業道作設



みどりの東北